

令和6年度 第1学年 シラバス

SYLLABUS



附

三重大学教育学部附属中学校

もくじ

1 シラバスについて

シラバスについて	1
三重大学の目標と附属中学校の研究について	2
教育課程授業時数一覧表・年間テスト計画表	3
シラバスの見方・評価と評定について	4

2 各教科の学習の仕方および年間計画

国語科	5～6
社会科	7～8
数学科	9～10
理科	11～12
音楽科	13～14
美術科	15～16
保健体育科	17～18
技術・家庭科	19～22
英語科	23～24

シラバスについて

シラバスとは、各教科の学習内容や学習方法、評価の仕方などを記した総合的な学習計画のことです。本シラバスでは、本校の教育目標－豊かな創造性とたくましい実践力を持ち、生活をきりひらく生徒の育成－を実現するために、各教科の具体的な指導内容・方法、評価の方法を示しています。

まず、教科ごとの学習の仕方を、[授業中]、[家庭学習]に分けて、それぞれ具体的に示しました。次に、年間の「評価の観点と評価の方法」に加えて、年間の「指導計画」を示しています。

生徒の皆さん、ここには1年間の学習内容が詳しく書かれています。ぜひ、毎日の授業や自宅での学習において、計画的・主体的に学習に取り組むことができるように、1年間の学習の「道しるべ」として積極的に本シラバスを利用してください。

また、保護者および地域の皆様におかれましては、本校の具体的な学習内容等をご確認いただき、お気づきの点などがありましたらお知らせいただければ幸いです。本校の教育目標に沿ったより良い教育を実現できるように、ご理解・ご協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

令和6年4月

三重大学教育学部附属中学校長

山口 勉

1. 三重大学の基本理念及び目標

三重大学の力を世界へ

大学と地域の調和

大学と自然の調和

研究と教育の調和

基本理念	三重から世界へ 世界から三重へ 未来を拓く地域共創大学 地域に根ざし、世界に誇れる教育・研究に取り組み、人と自然の調和・共生の中で、社会との共創に向けて切磋琢磨する。
目標 教育	幅広い教養を身につけるとともに高度な専門知識や技術を有し、国際的な視野を持ち、社会のイノベーションを推進できる人材を育成します。
研究	世界に貢献する特色ある先端研究、地域に根ざしたオンリーワン研究、社会課題の解決につながる応用研究、さらに未来を拓く多様な基礎研究に取り組み、国際性と高い倫理性を備えた研究活動を行います。
社会貢献	豊かで健康な持続可能未来社会の実現を目指し、産学官民の連携を深め、地域との協働・共創の拠点として諸課題の解決に取り組み、それら成果を社会実装することで、社会の発展と活性化に貢献します。

2. 三重大学教育学部附属中学校の学校目標及び研究テーマ

● 学校教育目標 豊かな創造性とたくましい実践力をもち生活をきりひらく生徒の育成

● 附属中学校 第32次 研究テーマ

探究活動を中心としたカリキュラムを通して生活や社会を切りひらこうとする生徒の育成
－生徒一人ひとりのウェルビーイングを目指して－

本校は、現状の教育課題を反映した研究テーマに沿って研究をすすめておりますが、その研究の基盤にあるのは、各教科の授業です。研究テーマは変われど、生徒と教員でよりよい授業をつくっていかうという姿勢は変わりません。現在も各教科等で資質・能力が育成できる授業開発・実践に取り組んでいます。この各教科等の内容と総合的な学習の時間における探究的な学習を結びつけるための計画表を作成し、どの時期にどの教科がどのような授業をしているかを明確にしています。

〈探求的な学習での取組〉

- ・【個人研究】 各個人の興味・関心に沿って、問いや仮説を立てて研究を進める。
- ・【協働】 問題意識の持ち方や研究の方向性によっては協力して活動を進める。
- ・【探究活動】 問題解決に向けて調査等行いながら活動する。
- ・【外部連携】 企業や大学等の専門家から指導を受ける。
- ・【成果発表会】 中間発表会、最終発表会、保護者や専門家、外部団体、教員に向けて成果を発表する。
- ・【まとめ・振り返り】 個人研究をレポートとしてまとめる。

急激に変化する時代を乗り越えていくために、

- ・学んだ知識・技能を使って一人ひとりのウェルビーイングの実現に向けて新しい価値の創造できる
 - ・失敗を恐れず、試行錯誤しながら粘り強く目標達成と自己実現に向けて努力し続ける
 - ・日常生活や社会の中で自分らしく生きるために他者と協力しながら問題発見・課題解決をし、真理の追究ができる
- 以上の資質・能力の育成を目指します。

本校の教育課程授業時数一覧表

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術家庭	英語	道徳	学活	総合的な学習の時間	合計
1年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	35	50	1015
	4	3	4	3	1.3	1.3	3	2	4	1	1	1.4	29
2年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	35	70	1015
	4	3	3	4	1	1	3	2	4	1	1	2	29
3年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	35	70	1015
	3	4	4	4	1	1	3	1	4	1	1	2	29

※上段：年間時数，下段：週時数

定期テスト実施計画表

		実施時期	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語
1年	1学期中間	今年度は実施しない									
	1学期期末	6/24,25,26	○	○	○	○	○	○	○		○
	2学期中間	10/15,16	○	○	○	○				○	○
	2学期期末	11/20,21,22	○	○	○	○	○	○	○		○
	学年末	2/18,19,20	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2年	1学期中間	今年度は実施しない									
	1学期期末	6/24,25,26	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2学期中間	10/15,16	○	○	○	○	○	○			○
	2学期期末	11/20,21,22	○	○	○	○			○		○
	学年末	2/18,19,20	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3年	1学期中間	今年度は実施しない									
	1学期期末	6/24,25,26	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	2学期中間	10/15,16	○	○	○	○					○
	2学期期末	11/20,21,22	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	学年末	2/18,19,20	○	○	○	○					○

※令和6年4月段階での予定です。

※3年生の3学期学年末テストの日程は、1月16日（木）、17日（金）の2日間で行います

1. シラバスの見方

第〇学年〇〇科

1. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	評価の方法(評価物)
知識・技能	
思考・判断・表現	
主体的に学習に取り組む態度	

2. 学習の仕方

【授業中】

授業中、何にどのように取り組めばよいか具体的に書かれています。より詳しく内容を説明する必要がある場合は、授業中に伝えます。ここに書かれていなくても、授業中の取り組みの様子は常に確認しています。

【家庭学習】

3つになった「評価の観点」と、それぞれの「主に評価の対象となるもの」が書かれています。さらに「主に評定に直接かわるもの」「主に学習の改善に使うもの」にわかれている教科もあります。よく読んで、日々の学習にいかしましょう。

家庭学習等の自主的な学習で、どのようなことに取り組んでいけばよいか書かれています。テスト勉強につながることも含まれていますが、テスト期間だけでなく、日々の授業を振り返りながら、ここに書かれていることに取り組むことが大切です。

2. それぞれの観点について

(1) 「知識・技能」

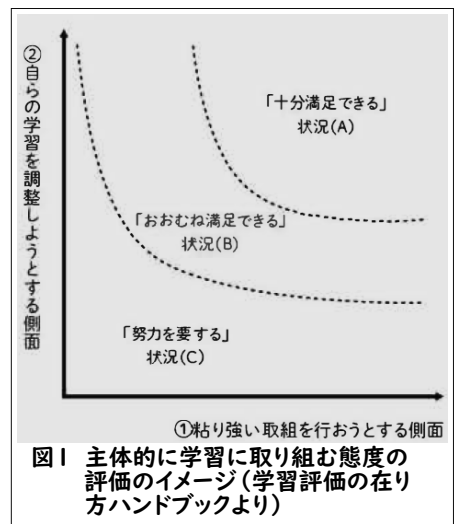
各教科等で身につけていく知識や技能の習得状況のことです。基礎的・基本的な知識を習得すればよいというものではなく、社会における様々な場面で活用できる知識として身に付けていくことが重要です。

(2) 「思考・判断・表現」

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決するために必要となる思考力、判断力、表現力等のことです。テストだけでなく、パフォーマンス課題や作品の制作、話し合い等多様な活動で発揮される力であり、普段の授業から各教科等の「見方・考え方」をはたらかせて活動に取り組むことが重要です。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」

各教科等の学習内容に関心をもつだけでなく、よりよく学ぼうという意欲をもって学習に取り組む態度のことです。「知識及び技能」を習得したり、「思考力・判断力・表現力等」を身につけたりするために、自分の学習状況を振り返り、学習の進め方を工夫して学んでいこうとしているかが重要です。粘り強い取組を続けながら、学習の進め方を工夫することで学習の質を高め、「知識及び技能」や「思考力・判断力・表現力等」を身につけることにつなげましょう。右図では、それを「①粘り強い取組を行おうとする側面」と「②自らの学習を調整しようとする側面」という形で表しています。より質の高い学習をするための参考にしましょう。



3. 各観点の評価と評定について

各観点の評価はこれまで通り、その観点の達成状況に応じてABCを用いて表します。評定は、3つの観点の平均値をもとに決定します。同じAでも高い水準のものとぎりぎりのものがありますから、各観点のABCの組み合わせが同じでも、評定が同じであるとは限りません。ABBの4もあれば、同じABBの3もあり得るということです。詳しい評価の内容については、三者懇談会等でお問い合わせください。

国語科

1. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	評価の方法(評価物)	
	主に評定に直接かかわるもの	主に学習の改善のために使うもの
知識・技能	定期テスト 単元テスト 書写作品 パフォーマンス課題	小テスト
思考・判断・表現	定期テスト 単元テスト パフォーマンス課題	ノートの記述 ワークシート
主体的に学習に 取り組む態度	振り返りシート 自主学習ノート パフォーマンス課題	

2. 学習の仕方

<p>【授業中】</p> <p>★どの授業でも意識すべきこと</p> <ul style="list-style-type: none">・ これまでに学んだことを、文章を読むときや話し合いをするとき、文章を書くときに生かす。・ どのような場面でも、適切な言葉を使う意識をもつ。・ 「文章」や「事実」に基づいて、論理的に考える意識をもって取り組む。・ 自分とは異なる意見を受け入れ、よりよい考えを構築しようとする姿勢をもつ。 <p>★具体的に取り組むべきこと</p> <ul style="list-style-type: none">・ 相手の意見をよく聞き、何を根拠にしているかを理解する。・ 文章をうのみにせず、批判的に読む。・ 自分の意見をもち、ノートに書く。・ 明確な根拠に基づいて自分の意見を述べる。・ 振り返りシートにこまめに記入する。
<p>【家庭学習】</p> <p>★自主学習ノート</p> <ul style="list-style-type: none">・ 漢字の練習。言葉の意味調べ。文法、古典などのまとめや問題。【知識・技能】・ 作文し、推敲する。自分なりに授業内容等のまとめを行う。【思考・判断・表現】・ 授業内容をさらに深く調べる。国語にまつわる調べ学習。【主体的に学習に取り組む態度】・ 国語と関連していれば、他教科の内容が中心になった学習も認める。 <p>★教科書を確認する</p> <p>★読書</p> <ul style="list-style-type: none">・ 読書をすることで、さまざまな言葉や考え方に触れられます。・ 少しずつ読む本の幅を広げましょう。特に時代をさかのぼっていくのがおすすめです。 携帯電話がないときの生活など、みなさんが知らない時代の考え方や生活を知ることができます。また、明治時代や大正時代までさかのぼると、文語(今よりも少し古文に近い言葉)で書かれた文章もあり、古文や漢文の学習にもつながります。・ 本や新聞などを読み、その感想を書いてみましょう。最初はメモ程度でもよいので、感想や自分の考えをまとめる練習をすると、考えたことをまとめる力がついてきます。・ 200字程度の作文を約10分で書けるようになるのが目標です。自分で時間を測って、作文を書く時間を作りましょう。

3. 指導計画(第1学年国語科)

1学期		2学期		3学期	
月	教材名(単元名)	月	教材名(単元名)	月	教材名(単元名)
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ふしぎ ・桜蝶 ・お気に入りの一品を紹介する ・文法の小窓1 言葉の単位 	9	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な未来を創るために——人の暮らし方を考える/「エシカル」に生きよう ・漢字の広場3 音と訓 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・文法の小窓3 単語のいろいろ ・言葉がつなぐ世界遺産/地域から世界へ
5	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の脳を知っていますか ・資料から得た根拠をもとに意見文を書く ・言葉の小窓1 日本語の音声 	10	<ul style="list-style-type: none"> ・森には魔法つかいがある ・根拠を明確にして意見文を書く ・文法の小窓2 文の成分 ・広告の情報を考える <p style="text-align: center;">中間テスト</p>	2	<ul style="list-style-type: none"> ・読み手を意識して報告文を整える ・発言を結びつけて話し合う ・漫画で「物語」を表現する ・漢字の広場4 熟語の構成 <p style="text-align: center;">学年末テスト</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の広場1 漢字の部首 ・ベンチ ・内容を整理して説明する <p style="text-align: center;">期末テスト</p>	11	<ul style="list-style-type: none"> ・昔話と古典 ・物語の始まり ・故事成語 ・子どもの権利 ・オツベルと象 ・随筆を書く <p style="text-align: center;">期末テスト</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> ・少年の日の思い出 ・四季の詩 ・言葉の小窓3 方言と共通語
7	<ul style="list-style-type: none"> ・すべては編集されている/写真で「事実」を表現する ・漢字の広場2 画数と活字の字体 ・材料を整理して案内文を書く 	12	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の小窓2 日本語の文字 ・河童と蛙 ・調べた内容を聞く 		

社会科

1. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	評価の方法(評価物)	
	主に評定に直接かわるもの	主に学習の改善のために使うもの
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期テスト ・ パフォーマンス課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業での知識・技能を必要とする発言 ・ ノートやワークシートへの考え・振り返りの記述
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ パフォーマンス課題 ・ 定期テスト ・ 授業での思考・判断を必要とする発言 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業での思考・判断を必要とする発言 ・ ノートやワークシートへの考え・感想・振り返りの記述
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートへの記述 ※単元の初めと終わりに行う自己評価 ・ 全ての評価物への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業での思考・判断を必要とする発言 ・ ノートやワークシートへの考え・感想・振り返りの記述 ※自らの学びをどれくらい変えようとしているかを見る

2. 学習の仕方

<p>【授業中】</p> <p>《一番大事なこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまでに学んだ「事実」や「見方・考え方」を、話し合い活動の場で使うことができるよう、常に意識する。 ・ 「単元を貫く問い」や「その日の問い」を、常に意識する。 <p>《ノートの作り方》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料から気づいたことや分かったこと、問いに対する自分の考えを、しっかり書く。 ・ 板書されたことを写すだけでなく、先生が説明したポイントやクラスメートが発表したことで大切だと思うことが、メモされてあると良い。 <p>《発表・発言》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回までの授業を振り返りながら、資料や既習事実、自らの体験などを根拠・理由とした発言を心がける。 ・ クラスメートの発言をふまえた発言を心がける。（「〇〇さんに似ていますが…」 「〇〇さんに付け加えて…」 「〇〇さんに反対で…」 など。） ・ 考えや意見は、先生に対してではなく、クラスメートに対して伝わるよう発言する。 <p>【家庭学習】</p> <p>【やるべきこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業で学んだことを、「その日」のうちに振り返る。 ・ 課題が出されたら、提出期限までに計画的に進める。 <p>【オススメすること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業で学んだ語句や用語などを確認し、単に暗記するのではなく、「意味」や「背景」を理解するようにすると良い。 ・ 授業中に確認した資料の見方、作図の仕方などを確認する。図や表を用いながら、学習した内容をまとめてみるとなおよい。 ・ ニュースや新聞を日常的に見るようにする。またその原因を考えたり、授業で学んだことと関連させながら考えられるとなお良い。
--

3. 指導計画(第1学年社会科)

1学期		2学期		3学期	
月	教材名(单元名)	月	教材名(单元名)	月	教材名(单元名)
4	オリエンテーション 【地理】世界の姿	8	【地理】身近な地域の調査 (夏休みの宿題)	1	
5	【地理】日本の姿	9	【地理】世界の諸地域(アジア州)	2	【歴史】古代から中世へ
	【地理】人々の生活と環境	10	【地理】世界の諸地域(ヨーロッパ州)		【歴史】鎌倉幕府の成立
6	【歴史】人類の始まりと文明	10	【地理】世界の諸地域(アフリカ州) 中間テスト	3	学年末テスト
	【歴史】日本列島の人々と国家の形成	11	【地理】世界の諸地域(北アメリカ州)		【歴史】室町幕府の下剋上
7	期末テスト	11	【地理】世界の諸地域(南アメリカ州)		
	【歴史】古代国家の展開	12	【地理】世界の諸地域(オセアニア州)		
			期末テスト		

数学科

1. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	評価の方法(評価物)	
	主に成績に直接かかわるもの	主に学習の改善のために使うもの
知識・技能	定期テスト	小テスト、ノートの記述、ワークシート
思考・判断・表現	定期テスト、パフォーマンス課題	ノートの記述、ワークシート
主体的に学習に取り組む態度	振り返りシート、パフォーマンス課題、ノートの記述、反省ノート	

2. 学習の仕方

<p>【授業】</p> <p>授業を受ける土台となる「みんなで話し合う」「意見を出し合う」「発言を聴き合う」姿勢があった上で、数学的な見方・考え方を生かすことを意識しよう。</p> <p>【いつも大切にしてほしいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題を解決して終わるのではなく、解決したことから何が分かるのかを明らかにしよう。 ・別解はないか考えてみよう。 ・考えを発展させて、例えば違って見えていたことが同じにとらえられないか考えよう。 ・問題の文章にこだわって、その場面や状況をとらえよう。 <p>【こういう風に授業を受けて欲しい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いついたことをつぶやいたり、ノートなどにメモしたりすることを大切にしよう。 ・見通しを持って、図やグラフの中に分かることを書き込もう。 ・教科書に書いてあることの意味を考えよう。 ・手順どおりに処理できるだけでなく、なぜその手順ができるのか理由・根拠を考えよう。 ・他の方法はないか、自分だったらどう考えるか、別の場面ならどうなっているか想像しよう。 ・授業をその日のうちに振り返って「何が分かったか、何が分からないか」をはっきりさせよう。 <p>【ノートのとり方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートに、自分だけでなく友達の意見なども書き残しておこう。 ・その授業の中で、「自分がどう考えていったか」が見えるノートを作ろう。
<p>【家庭学習】</p> <p>授業で取り組むこと以外にも、その内容にかかわることを授業とは違う環境で考えてみる時間を大切にしよう。</p> <p>【予習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の時間の授業内容について、教科書の該当する部分の例・例題を読んでおこう。 ・例・例題を読んだあと、それに関わる教科書の問やワークの問題を自分なりに考えて解答を書いておこう。 <p>【復習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のあとはなるべく早く教科書の練習問題や章末問題、ワークの残りの問題を解いていこう。 ・授業で学習したことや思考の流れを、ノートなどを見返して自分なりに整理しておこう。 <p>【学習の注意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間違った問題は解答を見て、なぜ間違ったのか、どうすればよかったかをその都度確認しよう。 ・答え合わせは、答えの丸写しはしないようにしましょう。 ・自分の力で解けるようになるために、ポイントだと思うことをメモのように書き残そう。 ・分からないことや難しいこと、どう取り組んでいいか分からないことをそのままにしない。 ・すでに解けた問題も、大切だと思うこと・忘れてしまいそうなことなどを書き残そう。

3. 指導計画（第1学年数学科）

1学期		2学期		3学期	
月	教材名（単元名）	月	教材名（単元名）	月	教材名（単元名）
4	1章正の数・負の数 1節正の数・負の数	9	3章方程式 1節方程式	1	5章平面図形 1節直線と図形
5	2節正の数・負の数の計算		2節方程式の利用	2	2節移動と作図
		10	中間テスト 7章データの活用 1節ヒストグラムと相対度数		3節円とおうぎ形
6	3節正の数・負の数の利用		2節データにもとづく確率	3	学年末テスト 6章空間図形 1節立体と空間図形
	2章文字の式 1節文字を使った式	11	4章変化と対応 1節関数		2節立体の体積と表面積
	期末テスト		2節比例		
7		12	期末テスト 3節反比例		
	2節文字式の計算		4節比例，反比例の利用		

理科

1. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	評価の方法(評価物)	
	主に評定に直接かかわるもの	主に学習の改善のために使うもの
知識・技能	・定期テスト ・レポート	・実験操作 ・レポート ・スケッチ・作図・グラフ
思考・判断・表現	・定期テスト ・レポート ・パフォーマンス課題	・ワークシート ・レポート
主体的に学習に取り組む態度	・レポート ・ふりかえり ・パフォーマンス課題	

2. 学習の仕方

【授業】

[知識・技能]

- ・授業で学習した知識及び技能の習得状況の把握は、レポートや定期テストで行います。
- ・技能の評価は定期テストでおもに行います。実験操作を行うことができるだけでなく、なぜそのような操作方法を用いるのかなどを言葉で表現できるようにしておきましょう。

[思考・判断・表現]

- ・授業で学習したことを活用して、考えたり・表現したりすることができるかを評価します。授業では、おもにレポート課題として取り組みます。
- ・思考力・判断力・表現力等は、授業に自主的に取り組み、他者と考えを話し合ったり、他者の考えを参考にすることで身につきます。授業中では自分の考えを積極的に発言しましょう。また他者との対話を大切にしましょう。
- ・安易に結論を求めるのではなく、本当にこの考え方でいいのか?とじっくり考察しましょう。
- ・パフォーマンス課題では、根拠をもとに考察し規則性や関係性を見いだすようにしましょう。また、発表では、見ている人がわかりやすいようにレポートをまとめ、聞いている人がわかりやすく説明できるようにしましょう。

[主体的に学習に取り組む態度]

- ・レポート課題やパフォーマンス課題への取り組みを通して、学んだ知識・技能を総合して活用できるようにしましょう。ふりかえりをする事で、「いま身につけていること」「これから身につけないといけないこと」を把握し自己分析しましょう。自己分析をすることで学習の質が向上します。

[知識・技能]

- ・授業で学習した内容を、ノートにまとめたり、完全学習などのワークを用いて復習しましょう。
- ・実験や観察の結果をノートにまとめる。単に実験結果をまとめるだけでなく、なぜそのような操作方法を用いるのか、なぜそのような結果になったのかなど、自分なりに考えも書き記しておきましょう。
- ・わからないところは、あとでふりかえりやすいように目印をつけておきましょう。

[思考・判断・表現]

- ・レポート課題では、実験結果の考察は根拠を持って書くようにしましょう。
- ・ネットの情報や文献を参考にしてもかまいませんが、単にそれらの情報をまとめるのではなく、根拠をもって自分の言葉でまとめるようにしましょう。
- ・「本当にそうなのか?」など批判的な考え方も持ちながら考察するようにしましょう。
- ・身のまわりの自然や事象について、「なぜそうなるのか」考えることを大切にしましょう。

[主体的に学習に取り組む態度]

- ・定期テストに向けて計画的に学習に取り組むようにしましょう。
- ・家庭学習でも、自己分析をすることで学習の質を高めることができます。
- ・身のまわりの自然や事象に目を向け、不思議に思うことをノートに書き記していきましょう。

3. 指導計画(第1学年理科)

1学期		2学期		3学期	
月	教材名(单元名)	月	教材名(单元名)	月	教材名(单元名)
4	○自然の中にあふれる生命	8		1	
	○いろいろな生物とその共通点	9	3章 水溶液の性質		
	1章 植物の特徴と分類				○生きている地球
5				2	1章 身近な大地
					2章 ゆれる大地
		10	4章 物質のすがたとその変化		3章 火をふく大地
			中間テスト		学年末テスト
	2章 動物の特徴と分類				
6			○光・音・力による現象	3	4章 語る大地
	1章 いろいろな物質とその性質	11	1章 光による現象		
	期末テスト				
			2章 音による現象		
			期末テスト		
7		12	3章 力による現象		
	2章 いろいろな気体とその性質				

音楽科

1. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	評価の方法(評価物)
知識・技能	ワークシート・定期テスト・実技テスト
思考・判断・表現	ワークシート・定期テスト
主体的に学習に取り組む態度	ワークシート・活動での取り組み状況・振り返りシート

2. 学習の仕方

【授業中】

☆授業の基本は、音楽に興味をもち積極的に関わる姿勢を大切にしましょう。「歌を歌う」「楽器を演奏する」「鑑賞する」「創作する」活動を通して、「表現する・聴き合う・感じ合う・心が動く」など音楽に対する感性を働かせましょう。

☆がんばってほしいこと

【歌を歌うとき】

- ・どんな発声や言葉の発音がよいか、身体をどのように使うかなどを試しながら技能を身につけよう。
- ・曲想や歌詞の内容を味わおう。「なぜそのように歌いたくなるのか」を曲の背景や知識と結びつけて表現を工夫しよう。
- ・パフォーマンステストを通して、自身の技能や表現力を高めよう。

【楽器を演奏するとき】

- ・個々の楽器に親しみ、練習しながら技能を身につけよう。音色を味わうなど全員合奏を楽しもう。

【創作】

- ・音楽を形づくっている要素を学び、一つずつ理解していこう。
- ・仲間とアイデアを出し合い、試したり、知識を活用したりしながら、自分たちの思いを表現しよう。

【鑑賞】

- ・多様な音楽に触れて、聴き比べながら音楽の特徴を感じ取ろう。
- ・なぜそのように感じ取れるのか根拠や理由を探し、学習を深めよう。

【どんなときも】

- ・仲間とコミュニケーションを図りながら、理解や技能を深めよう。
- ・感じたこと分かったことは記録し、学びを振り返ることで音楽との関わり方の変容を知ることができす。自分の成長を肌で感じながら向上していきましょう。
- ・「附中のハーモニー」では、心を通い合わせてクラスが一つになる達成感を味わうと共に、想いを観客に伝えることを目指していきましょう。練習をコツコツと頑張りましょう。

【家庭学習】

歌唱

- ・ノートや楽譜などに書き留めたこと、授業で習ったことを整理しよう。
- ・読譜や音程を取ることは本来時間がかかることです。音符やリズム・強弱記号・速度変化などが分かるようになるには、毎日の練習に勝るものではありません。そうすると、歌えるようになるだけでなく、いろいろな表現を工夫できるようになります。

鑑賞

- ・積極的に調べ学習を行うと理解の助けになります。歴史や言語・文化と結びつけると、なぜそのような音楽が生まれたのかといった背景に迫ることができ、様々な視点から音楽を捉えることができます。
- ・どんな音楽かを知るために一番良い方法は、繰り返し聴いてみることです。演奏者や形態の違うものを探し、比較しながら聴くと発見があるでしょう。自分の歌声と比べたり一緒に歌ったり心から楽しむことが近道です。

3. 指導計画(第1学年音楽科)

1学期		2学期		3学期	
月	教材名(单元名)	月	教材名(单元名)	月	教材名(单元名)
4	校歌 歌唱「青空へのぼろう」	9	附中のハーモニー課題曲	1	鑑賞「郷土の様々な民謡」 歌唱「ソーラン節」 歌唱「谷茶前」
5	歌唱「明日を信じて」 創作 歌唱実技テスト	10	附中のハーモニー課題曲 鑑賞「魔王」 歌唱実技テスト	2	創作 学年末テスト 国歌・校歌
6	鑑賞「春」 歌唱「夏の思い出」 期末テスト	11	鑑賞 箏曲・尺八曲 歌唱「飛び立とう君の空へ」 期末テスト	3	歌唱 アカペラ曲
7	附中のハーモニー課題曲	12	器楽 箏		

美術科

1. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	評価の方法(評価物)
知識・技能	・作品(実技テストを含む) ・定期テスト ・ワークシート
思考・判断・表現	・作品 ・アイディアスケッチ ・ワークシート ・定期テスト
主体的に学習に 取り組む態度	・活動への取組み ・振り返りシート ・アイディアスケッチ ・作品 ・ワークシート

2. 学習の仕方

【授業中】

《準備・片づけ》

- ・ 次回の授業は何をするのか把握し、事前に準備物を考えて用意しよう。
- ・ 制作時間を十分に確保するため、チャイムが鳴るまでに教室移動を行い授業準備をしよう。
- ・ 道具を大切に使い、次に使う人に配慮した後片付けと清掃を行おう。

《アイディア・鑑賞》

- ・ これまでの経験や体験を通した心の動きや学びを活かして、作品作りに取り組もう。
- ・ 新しいアイディアが出てこない時は、教科書や資料集、タブレットによる検索等を活用し、様々な作品を参考にしてみよう。
- ・ 自他の作品の美しさや面白さなど良いところを見つけられる「感じる力」を身につけよう。
- ・ 多様な意見に触れることを通して、見方・感じ方を広げ、深め、自分の制作活動に活かそう。
- ・ アイディアスケッチでは、間違ってもよいので試しながら、より良いアイデアを考えていこう。

《制作》

- ・ 自分のアイデアをより良く表現するために、様々なやり方を考え、色、形、材料・道具の使い方など工夫し、最もイメージに合った表現方法を見つけよう。
- ・ 提出期限を把握し、計画的に進めよう。
- ・ みんなの作品がより良いものになるよう、班で協力し取り組もう。

《振り返り》

- ・ 具体的に振り返り、学びの足跡をしっかりと残しておこう。(わかったこと、大切だと思ったこと、改善点、他の分野や将来に結びつくこと等)
- ・ 習得した知識と技術を、いろいろな場面(美術以外でも)で使えるようにしよう。

【家庭学習】

《集める・アイディアスケッチをする・写真に撮る・試す・考えをまとめる》

- ・ 普段目にするモノや景色をよく見てみよう。そして、使いやすさや、色や形、大きさ、美しさ、面白さなど、関心をもってみよう。
- ・ 自分の好きなもの、好きな創作物などをよく観察し、頭の中やスケッチブック、メモなどにイメージを蓄えていこう。
- ・ 作品のテーマについてじっくりと考え、調べ、作品の意図に奥行きを持たせよう。
- ・ より良い創作活動に向けて、様々なものや経験を通し、自らの感性を高めよう。

3. 指導計画(第1学年美術科)

1学期		2学期		3学期	
月	教材名(单元名)	月	教材名(单元名)	月	教材名(单元名)
4	「オリエンテーション」	8		1	【描く活動】 光と陰を捉える ・デッサンについて
5	【表現方法基礎】 「色忍者」 ・色彩について ・デザインセットの使い方について	9	(4週間教育実習)	2	※【鑑賞】色と形 ※【描く活動】 「平面のデザイン」 ・色面構成について
6	【鑑賞】 (2週間教育実習) 【鑑賞】文字による表現 【描く活動】 「文字のデザイン」 ・レタリングについて	10	【つくる活動】 「オリジナル弁当」 ・彫刻について	3	学年末テスト
7	期末テスト	11			
		12	期末テスト		
	【鑑賞】		【鑑賞】		

※状況に応じて【メディア表現】に変更することもあります。

保健体育科

1. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	評価の方法(評価物)
知識・技能	・授業でのパフォーマンス ・ワークシート等の記入内容 ・定期テスト
思考・判断・表現	・授業でのパフォーマンス ・課題解決に向けた意見の内容 ・ワークシート等の記入状況・定期テスト
主体的に学習に 取り組む態度	・授業への取組状況 ・ワークシート等の記入状況

2. 学習の仕方

【授業中】

[体育分野]

- 自分の身体に向き合い、様々な運動種目に取り組もう。
 - ・授業への実質的参加を第一に考えましょう。
 - ・健康管理に注意をし、欠席、見学をしなくてもよいようにしよう。
- 安全への配慮をしましょう。
 - ・指定された体操服、体育館シューズを正しく身につけよう(爪も短くしておく)。
 - ・準備、片付けなど場の安全を確認してから行動しよう。
- 課題意識をしっかり持ちましょう。
 - ・どうしたらうまくできるのか意識して取り組もう。
 - ・基本的なレギュレーションや技名は予習して授業に挑もう。
- いつでも、どこでも、誰とでも学ぼう。
 - ・仲間を大切にし、互いに学びあう関係を築こう。

[保健分野]

- 教科書の内容を中心に理解し、探求的に課題に取り組もう。
- 課題意識をしっかり持ちましょう。
 - ・資料を活用し、学んだ内容を整理しておこう。
- いつでも、どこでも、誰とでも学ぼう。
 - ・仲間を大切にし、互いに学びあう関係を築こう。

【家庭学習】

- 健康な状態で授業に臨めるように体調を整えましょう。
 - ・健康を維持する行動を心がけよう。また、保健分野で学んだことを生かそう。
- スポーツ事象に関心を持ちましょう。
 - ・観ることもスポーツへの関わり方のひとつです。普段からスポーツに関心を持とう。
- 人々の生活に関心を持ちましょう。
 - ・様々な生活環境・基盤・背景に関心を持ち、暮らしとの関わりを考えてみましょう。

- 定期テストでは、授業で学んだことが出題の範囲となります。

[体育分野]

- ・からだで得た感覚を整理する。
- ・副読本でレギュレーション(規制・規則)やからだの動きを確認する。

[保健分野]

- ・資料や教科書の内容、領域によっては実習の手順を確認する。

3. 指導計画(第1学年保健体育科)

1学期		2学期		3学期	
月	教材名(单元名)	月	教材名(单元名)	月	教材名(单元名)
4	体づくり運動 (体ほぐしの運動)	9	球技 (ネット型)	1	球技 (ゴール型)
	体育理論 (運動やスポーツの多様性)		保健分野 (心身の発達と心の健康)		保健分野 (心身の発達と心の健康)
5	陸上競技 (短距離・リレー)	10	球技 (ベースボール型)	2	体づくり運動 (体力を高める運動)
	保健分野 (健康な生活と病気の予防①)		保健分野 (心身の発達と心の健康)		武道 (剣道)
6	器械運動 (マット運動)	11	球技 (ゴール型)	3	学年末テスト
	保健分野 (健康な生活と病気の予防①)		ダンス		
7	球技 (ネット型)	12	保健分野 (心身の発達と心の健康)		
	期末テスト		期末テスト		
	水泳の心得				

技術・家庭科(技術分野)

1. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	評価の方法(評価物)
知識・技能	定期テスト・作品・授業プリント・技術ノート
思考・判断・表現	定期テスト・授業の様子・作品への取り組み・提出物・授業プリント・技術ノート
主体的に学習に取り組む態度	授業の様子・提出物・授業プリント・技術ノート・定期テスト

2. 学習の仕方

【授業中】

[知識・技能]

- ・授業で学習したことをノートやプリントに記述し、次の工程につなげる。
- ・計画された工程により作品を仕上げることができる。
- ・安全面に気をつけて、効率的でより早く丁寧に作品を仕上げることができる。

[思考・判断・表現]

- ・既存のさまざまな製品にある技術や工夫に気付くことができる。
- ・既存の製品の課題を見出し、より良くするためのアイデアを考える。
- ・自分のアイデアや考えを、周りの人に説明できる。
- ・作品を作る上での課題に気づき、どうすればよいか考え工夫できる。

[主体的に学習に取り組む態度]

- ・授業や実習に意欲的に取り組むことができる。
 - ・「学習してわかったこと」「考えたこと」「疑問に思っていること」等を振り返りをノートやプリントにしっかりと記入する。
 - ・自己評価をする。自分の取り組みで、良かった事や、課題等を具体的に振り返る。
 - ・ロイロノートでの提出が多くなります。しっかりと提出できるようにしましょう。
- ※ICT機器(iPadなど)を有効に活用しよう。

【家庭学習】

[知識・技能]

- ・教科書, ノート, プリントを用いて, 新しく学習した語句や道具の使い方等を理解しましょう。

[思考・判断・表現]

- ・普段の生活の中でも, さまざまな製品にある技術や工夫を考えてみよう。
- ・学習した内容と身近な技術との関わりについて, 考えてみよう。

[主体的に学習に取り組む態度]

- ・技術の発達場面でどんな技術があるか考え, 興味を持つことができる。
- ・技術が生活でどのように工夫されてきたかを考えることができる。
- ・技術開発のすばらしさに気付き関心をもつ。
- ・教科書, ノート, プリント等で授業の内容を見直そう。

※ICT機器(iPadなど)を有効に活用しよう。

3. 指導計画 【第1学年技術・家庭科(技術分野)】

1学期		2学期		3学期	
月	教材名(単元名)	月	教材名(単元名)	月	教材名(単元名)
4	<ul style="list-style-type: none"> 生活や社会における技術の役割 技術で学ぶこと 技術を見つけよう 技術と私たちの生活 情報に関する技術 	8		1	・点検
		9	<ul style="list-style-type: none"> 製作品の構造について 木材による製作 工具について 		・組み立て
5	<ul style="list-style-type: none"> ○材料と加工に関する技術 製品の工夫と技術の進歩 ものづくりの視点と進め方 さまざまな材料 木材の特徴 	10	中間テスト	2	<ul style="list-style-type: none"> 点検 プレゼン 学年末テスト
			・けがき		
6	<ul style="list-style-type: none"> 製図 	11	<ul style="list-style-type: none"> 切断 部品づくり 	3	<ul style="list-style-type: none"> 日本の伝統の技(技術)を知る。
7	<ul style="list-style-type: none"> 構想したものを図で表す。 	12			

技術・家庭科（家庭分野）

1. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	評価の方法（評価物）
知識・技能	・ワークシート・作品　・実習 ・定期テスト　・実技テスト
思考・判断・表現	・ワークシート・定期テスト・作品 ・パフォーマンス課題
主体的に学習に 取り組む態度	・ワークシート ・振り返りシート

2. 学習の仕方

【授業中】

[知識・技能]

- ・学習内容を日常生活と結びつけて考えていきましょう。
- ・技能は繰り返し練習し、定着をめざしましょう。

[思考・判断・表現]

- ・生活経験や科学的な根拠にもとづいて考えていきましょう。
- ・さまざまな視点をはたらかせ、「本当にこれでいいの?」と見直していきましょう。
- ・自分や家族の生活の中にある課題を見出し、その課題解決の方法や工夫を考えていきましょう。(地域・社会・地球環境にも目をむけていこう)
- ・自分の考えや意見を積極的に発信していこう。また、仲間の考えや意見を受けとめ、互いに学び合う関係を大切にしましょう。

[主体手的に取り組む態度]

- ・振り返りシートを用いて、課題を見つけ、よりよい生活につながる改善策や工夫を考えていこう。

【学習する環境を整えよう】

- ・授業に必要な教科書や実習に必要な材料・準備物を整える。
調理実習:エプロン、三角巾、マスク、布巾　被服実習:裁縫セット

【家庭学習】

○実践する

学習を通して学んだことを家庭で実践してみましょう。実践して気づいたこと、見つけた課題や改善点などを次の学習につなげていきましょう。

○さまざまな人々と関わる

家族や友だちなど身近な人だけでなく、地域の異なる世代の方との関わりも大切にしましょう。さまざまな人々と関わることで家庭科の学びが深まります。

○課題発見

よりよい生活をめざし、自分や家族の生活や社会の中の課題を意識的にみつける姿勢をもとう。ニュースや新聞などで確かな情報をつかむことも大切です。

3. 指導計画【第1学年技術・家庭科(家庭分野)】

1学期		2学期		3学期	
月	教材名(単元名)	月	教材名(単元名)	月	教材名(単元名)
4	ガイダンス 自分の成長と家族・家庭	9	持続可能な衣生活 住まいのはたらき 住まいの空間	1	食事の役割 健康に良い食習慣 中学生に必要な栄養素
5	衣服で伝わるメッセージ 自分らしくコーディネート 和服の文化 上手な衣服の選択	10	安全な住まい (家庭内事故への備え) (空気環境の安全対策) 中間テスト	2	栄養素のはたらき 6つの基礎食品群 学年末テスト
6	日常着の手入れと保管 (衣服の手入れ) (めざそう洗濯名人) (補修や収納・保管) <手縫いの基礎> ・まつり縫い ・スナップつけ 作品製作	11	(防火対策) (防犯対策) (災害への備え) 快適な住まい (住まいの掃除)	3	食品群別摂取量のめやす 食事の点検 (栄養バランス)
7	↓	12	持続可能な住生活		

英語科

1. 評価の観点と評価の方法

評価の観点	評価の方法(評価物)	
	主に評定(成績)に直接関わるもの	主に学習の改善のために使うもの
知識・技能	定期テスト, 単元末ミニテスト, パフォーマンステスト(スピーチ, プレゼン, 英作文など)など	テスト各種 ワークブック 授業中に与えられた課題 振り返り
思考・判断・表現	定期テスト, パフォーマンステスト(やり取り, スピーチ, プレゼン, 英作文など)など	
主体的に学習に取り組む態度	テスト各種, 授業中に与えられた課題, 振り返りなど	

2. 学習の仕方

<p>【授業中】</p> <p>☆すべての授業において, 積極的に人と関わる姿勢や授業に主体的・意欲的に取り組む姿勢を大切にしましょう。</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国語の音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働きについての知識を身に付けましょう。 ・外国語の音声や語彙, 表現, 文法, 言語の働きなどの知識を, 聞くこと, 読むこと, 話すこと, 書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けましょう。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを行う目的や場面, 状況に応じて, 外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり, これらを活用したり, 表現したり伝え合ったりしましょう。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちや状況, 目的や場面を考えながら, コミュニケーションをとりましょう。 ・間違いを怖れずに, 外国語でコミュニケーションをとりましょう。 ・授業を毎回振り返り, 自分の学習状況を把握しましょう。また, 見通しを持って, 学習を進めましょう。
<p>【家庭学習】</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークを繰り返し解き, 英語の知識や文法の使い方を定着させましょう。 ・自分が使えるようになりたい英語表現などを, 必要に応じて使えるように練習しましょう。 ・教科書の音声教材を聞きながら, 音読練習を行い, 音声の正しい知識や技能を身に付けましょう。 ・リピートクを活用しながら, 家庭学習で音読の練習をしましょう。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や場面, 状況を考えてノートなどに, 身に付けた知識を使って, 外国語で自己表現の文章を書きましょう。 ・目的や場面, 状況を考えて外国語を話す練習をしましょう。(プレゼンテーションやスピーチの練習など) <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の学習状況に合わせて, 自分の力を伸ばすために必要な学習をしましょう。 ・外国語の習得には2000時間必要という研究結果もあります。授業は1年間で140時間しかありません。 <p>本当の英語の力を伸ばしていくには授業時間外でいかに多く英語に触れるかが大切です!</p>

3. 指導計画(第1学年英語科)

1学期		2学期		3学期	
月	教材名(单元名)	月	教材名(单元名)	月	教材名(单元名)
4	<ul style="list-style-type: none"> ・Let's Be Friends! ・Unit 1 Here We Go! 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 4 Our New Friend 	1	<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 7 New Year Holidays in Japan ・Daily Life 4 ウェブサイト
		9		<ul style="list-style-type: none"> ・Unit 5 This Is Our School 	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・Daily Life 国際郵便 ・Unit 2 Club Activities 	10	<p>中間テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Daily Life 2 落とし物 ・Unit 6 Cheer Up, Tina 		<p>学年末テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Daily Life 5 ラジオの中継
		11		<ul style="list-style-type: none"> ・Daily Life 3 カフェ ・Let's Read 1 What Am I? 	
6	<p>期末テスト</p>	<p>期末テスト</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・You Can Do It! ① 自己紹介で共通点・相違点を見つけよう 		<ul style="list-style-type: none"> ・You Can Do It! ② 「ドリームファミリー」を紹介しよう
				7	